7月8日（水曜日）「なまけ者よ」

【新改訳 2017】

箴言　6•6－15

「なまけ者よ。いつまで寝ているのか。いつ目を覚まして起きるのか。しばらく眠り、しばらくまどろみ、しばらく手をこまねいて、また休む。だから、あなたの貧しさは浮浪者のように‥‥‥来る。」（9－11節）

　ひところ、モーレツサラリーマンや企業戦士が誇りと思われました。しかし、日本ではバブル経済が崩壊したこともあり、その評価は変わりました。だからといって、怠けてよいというわけではありません。

　ここには、怠け者の姿が巧みに描写されています。怠惰の結果は、心と生活に貧しさが忍び寄ることです。早く気づいて正さなければなりません。

　朝に弱いと言い訳を繰り返していた一人の信徒が、ある朝、しぶしぶ聖書を開いたらこの箇所

が目に入り、びっくりして悔い改めたと証しをされました。主は民の怠惰を喜びません。「きょう」は二度とないのです。忠実に生きようではありませんか。

～祈り～

主よ。口実をつけては怠けたがる者です。憐れんでください。どうか、あなたが与えてくださった一日一日を、精一杯生きることができますように。

【学びのために】

怠惰についての一般的なことわざの例「怠惰はすべての恥ずべき行いの母なり」（フランスのことわざ）、「怠け者の舌だけでは怠け者ではない」（西洋のことわざ）、など多くあります（『キリスト教例話辞典』藤井康男編）。